

第2学年1組 国語科 学習指導案

日 時：令和6年11月15日（金）第5限
指導者：前川 真紀子
場 所：家庭室

1 単元名 これから生きる私たちは—適切な根拠で意見文を書こう—

2 単元の目標

(1) 意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。

【知識及び技能】情報(2)ア

(2) 根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えるなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。

【思考力、判断力、表現力等】B書くこと(1)ウ

(3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。

【学びに向かう力、人間性等】

3 本単元における言語活動

社会生活の中で生じる問題について意見文を書く。

(関連：【思考力、判断力、表現力等】B書くこと(2)ア)

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。 (2)ア	「書くこと」において、根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えるなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。 B(1)ウ	粘り強く根拠の適切さを考え、学習課題に沿って意見を述べる文章を書こうとしている。

5 指導に当たって

(1) 教材観

本単元は、論説「モアイは語る — 地球の未来 —」のすぐ後に学習する単元である。「モアイ」の結論ではイースター島の歴史が人類の行く末を暗示していると述べられており、この具体と抽象の関係が筆者の意見に強い説得力を与えている。本単元は、テーマについて自分の意見を持ち、それを明確に伝えるためにどんな根拠を示せばよいか、自分とは異なる立場の相手にも訴えかけるにはどう構成を工夫すればよいかを学ぶことができる。

(2) 生徒観

当日の指導案集をご覧ください。

(3) 指導観

「適切で具体的な根拠を示すことは自分の意見に強い説得力を与えられる」という前単元の学びをいかし、本単元は自分の意見に説得力をもたせて述べる実践としたい。そのために、意見を支える根拠選びや予め反論を想定し、それに対して意見を述べる構成の効果について指導

する。次に、ワークシートで構成メモを作ることでねじれのある文章を書きがちな生徒にも文章の展開について明確なイメージをもたせてから意見文に入らせたい。書くことに苦手意識のある生徒に対しては、この構成メモの段階でアドバイスしたり、段落の書き始めを指示したりしていく。

テーマを複数提示してそこから自分でひとつ選ばせ、グループの中で意見文を発表することにより、生徒にとって現代社会で生じている様々な問題を知る機会とし、日頃関心の低い社会生活に目を向けて自分はどうのように行動していくべきか、自分事として考える姿勢を育みたい。

6 指導と評価の計画（総時数6時間）

時間	学習活動	評価する内容・評価方法
1 ・ 2	○適切な根拠に必要なポイントを知る。 ○自分の意見を明確に相手に伝えるための構成の工夫を知る。 ○テーマを決め、情報収集をする。	【知識・技能】 意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。 (確認テスト) (2)ア
3 ・ 4	○自分の立場を決め、意見を支える根拠を考える。 ○構成メモを作る。 ○意見文を書く。	【思考・判断・表現】 根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えるなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。 (観察・ワークシート) B(1)ウ
5	○意見を支える根拠の適切さや文章の構成等について具体的に検討し、指摘し合う。	
6	○他の生徒からもらったアドバイスをもとに、意見文を修正する。	【主体的に学習に取り組む態度】 粘り強く根拠の適切さを考え、学習課題に沿って意見を述べる文章を書こうとしている。(意見文)

7 学校研究との関わり

◇視点Ⅰ 生徒一人一人の可能性を引き出す工夫

- (1) 前単元での学習を生かし、適切な根拠を示す手立てとする。
- (2) 意見文を書く前段階として構成シートを書かせ、展開の工夫を個別にアドバイスする。
- (3) 交流の目的を明確にすることで、より説得力をもたせるには自分の文章のどこを修正したらよいか、個々にポイントをつかめるようにする。

◇視点Ⅱ 自己決定の場の工夫

- (1) 現代社会に生ずる様々な問題を提示し、生徒自身がテーマを選べるようにする。
- (2) テーマについて調べる際に、Chromebook だけでなく書籍や新聞も準備する。

8 本時の学習（第一次 第5時）

(1) 単元名 これからを生きる私たちは一適切な根拠で意見文を書こうー

(2) 本時のねらい

- ・ 確かな事実や事柄に対する適切な解釈から意見を導き出すとともに、説得力のある順序で根拠を具体的に記述できる。 **【思考力、判断力、表現力等】 B(1)ウ**

(3) 本時の展開

配時	○主な学習活動 ・予想される生徒の思考や発言 下線生徒が ICT を活用する場面	*教師の関わり ◇研究の視点 ☆評価【観点】(評価方法)		
つかむ (10)	○授業の流れやルールを確認する。 ・ Chromebook は資料として使うのだな。 ・ 事前に考えた良い点や疑問点・改善点で交流していくためには、しっかり発表を聴く必要があるな。	*本時の見通しをもたせ、全員に交流の目的を意識させる。		
課題 適切な根拠と構成の工夫で意見文が書けているか検討しよう				
ふかめる (30)	○グループで意見を発表する。データや画像は Chromebook で見せる。 ○(発表者以外の生徒) 自分の手元の原稿や付箋と見比べながら発表を聴く。 ・発表者はどんな根拠を示しているかな。 ・反論に対してどんな答えを用意しているのかな。 ○(発表が終わるごとに) 意見文の良い点や疑問点・改善点について交流する。 ・なぜこの根拠を使うことにしたのか。 ・自分の□□という意見に説得力をもたせるためには、この根拠の■ ■という事実が裏付けになると考えたからだ。 ・発表者は「△△」という問題について「▲▲」するべきだと考えているが、それはどうやって実行するのか。 ○全員の発表・交流が終わったグループから、自分の原稿に修正点を書き込んでいく。	*発表の様子を観察し、交流の内容に注目してやりとりが深まるように支援する。 ◇視点 I (3) 交流の目的を明確にすることで、より説得力をもたせるには自分の文章のどこを修正したらよいか、個々にポイントをつかめるようにする。 ☆根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えるなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。 【思考・判断・表現】B(1) (観察・ワークシート) ★Cと判断される生徒への手立て 改善点の指摘だけでなく、他にどんな根拠が考えられるか、ねじれをどう解消したらいいか、グループのメンバーがアドバイスできるように促す。		
まとめる (10)	○ふりかえりをし、感想を話し合う。	*ふりかえりを書かせたあとで、感想も交えて伝え合うように指示する。		
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 15%;">振り返り</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・交流で意見をもらうことで、自分の意見文を修正することができた。 ・疑問点・改善点を教えてもらうことで、自分の文章に何が足りなかったかがわかった。 ・発表をしっかり聴いて質問で深めることができた。 ・いろんな意見をもっている人がいると感じた。 ・現代社会のさまざまな問題は、どれも人間の活動が原因になっていると思った。 ・どの問題も、弱い立場の人が苦しんでいるのだな。 ・これからは社会問題にも関心をもっていきたい。 </td> </tr> </table>			振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・交流で意見をもらうことで、自分の意見文を修正することができた。 ・疑問点・改善点を教えてもらうことで、自分の文章に何が足りなかったかがわかった。 ・発表をしっかり聴いて質問で深めることができた。 ・いろんな意見をもっている人がいると感じた。 ・現代社会のさまざまな問題は、どれも人間の活動が原因になっていると思った。 ・どの問題も、弱い立場の人が苦しんでいるのだな。 ・これからは社会問題にも関心をもっていきたい。
振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・交流で意見をもらうことで、自分の意見文を修正することができた。 ・疑問点・改善点を教えてもらうことで、自分の文章に何が足りなかったかがわかった。 ・発表をしっかり聴いて質問で深めることができた。 ・いろんな意見をもっている人がいると感じた。 ・現代社会のさまざまな問題は、どれも人間の活動が原因になっていると思った。 ・どの問題も、弱い立場の人が苦しんでいるのだな。 ・これからは社会問題にも関心をもっていきたい。 			

本時のねらいを達成したときの生徒の姿

・根拠の適切さや自分の意見が伝わりやすい構成の工夫について理解を深めている。

人権尊重の視点に立ち学習活動を行ったときの生徒の姿

・相手の考えを知るには傾聴が役立ち、自分の力を伸ばすには意見交流が効果的だと感じている。